

# Oracle® Database

Client クイック・インストール・ガイド

10g リリース 2 (10.2) for AIX 5L Based Systems (64-bit)

部品番号 : B25042-02

原典情報 : B19078-02 Oracle Database Client Quick Installation Guide 10g Release 2 (10.2) for AIX 5L Based Systems (64-Bit)

2006 年 3 月

---

このマニュアルでは、Oracle Database Client 10g for AIX 5L Based Systems (64-bit) に含まれている製品をすばやくインストールする方法を説明します。内容は、次のとおりです。

1. このマニュアルの概要
2. `root` としてのシステムへのログイン
3. ハードウェア要件の確認
4. ソフトウェア要件の確認
5. 必須のオペレーティング・システム・グループおよびユーザーの作成
6. Oracle ベース・ディレクトリの作成
7. `oracle` ユーザーの環境の構成
8. 製品ディスクのマウント
9. Oracle Database Client のインストール
10. インストール後の作業
11. ドキュメントのアクセシビリティについて
12. サポートおよびサービス

# 1 このマニュアルの概要

---

---

**注意：** このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Client をインストールする方法を説明します。このシステムに既存の Oracle ソフトウェア・インストールが存在する場合、詳細なインストール方法については『Oracle Database Client インストール・ガイド for AIX 5L Based Systems (64-bit)』を参照してください。

---

---

このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Database Client をデフォルトでインストールする方法を説明します。次のインストール・タイプのインストール方法を説明します。

- **管理者：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle Database インスタンスに接続できます。また、Oracle Database を管理するためのツールが提供されます。
- **ランタイム：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle Database に接続できます。
- **Instant Client:** Oracle Call Interface (OCI)、Oracle C++ Call Interface (OCCI)、Pro\*C または Java データベース接続 (JDBC) OCI アプリケーションに必要な共有ライブラリのみがインストールできます。このインストール・タイプは、他の Oracle Database Client のインストール・タイプに比べ、非常に少ないディスク領域で済みます。

**関連項目：** Instant Client 機能の詳細は、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

このマニュアルでは、「カスタム」インストール・タイプについては説明しません。

## 追加インストール情報の入手先

Oracle Database Client のインストールの詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for AIX 5L Based Systems (64-bit)』を参照してください。

このマニュアルは、製品ディスクに含まれています。アクセスするには、Web ブラウザで、インストール媒体のトップレベル・ディレクトリ内にある welcome.htm ファイルを開き、次に「ドキュメント」タブを開きます。

## 2 root としてのシステムへのログイン

Oracle Database Client をインストールする前に、root ユーザーとしていくつかのタスクを実行する必要があります。root ユーザーとしてログインするには、次の手順の1つを実行します。

---

---

**注意：** ソフトウェアは、X Window System ワークステーション、X 端末、または X サーバー・ソフトウェアがインストールされている PC またはその他のシステムからインストールする必要があります。

---

---

- ソフトウェアを X Window System ワークステーションまたは X 端末からインストールする場合、次の手順を実行します。

1. X 端末 (xterm) など、ローカル・ターミナル・セッションを開始します。
2. ソフトウェアをローカル・システム以外にインストールする場合、リモート・ホストの X アプリケーションをローカル X サーバーに表示できるように、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost fully_qualified_remote_host_name
```

例:

```
$ xhost somehost.us.acme.com
```

3. ソフトウェアをローカル・システム以外にインストールする場合、ssh、rlogin または telnet コマンドを次のように使用して、ソフトウェアをインストールするシステムに接続します。

```
$ telnet fully_qualified_remote_host_name
```

4. root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

- X サーバー・ソフトウェアがインストールされた PC または他のシステムからソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。

---

---

**注意:** このタスクの実行方法の詳細は、必要に応じてご使用の X サーバーのドキュメントを参照してください。使用している X サーバー・ソフトウェアによっては、タスクの実行順序が異なる場合があります。

---

---

1. X サーバー・ソフトウェアを起動します。
2. X サーバー・ソフトウェアのセキュリティ設定を構成して、リモート・ホストの X アプリケーションをローカル・システム上で表示できるようにします。
3. ソフトウェアをインストールするリモート・システムに接続し、そのシステムで X 端末 (xterm) などのターミナル・セッションを開始します。
4. リモート・システムに root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

### 3 ハードウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のハードウェア要件を満たしている必要があります。

- 256MB 以上の物理的な RAM
- 次の表に、インストールされている RAM と構成されているスワップ領域の要件の間の関係を示します。

RAM	スワップ領域
最大 256MB	RAM のサイズの 3 倍
257 ~ 512MB	RAM のサイズの 2 倍
513 ~ 726MB	RAM のサイズの 1.5 倍
727MB 以上	RAM のサイズの 0.75 倍

- クライアント・インストールに必要な TEMP 領域の最小値は、115MB です。/tmp ディレクトリの最小ディスク領域要件は、選択したインストール・タイプによって異なります。次の表に、インストール・タイプごとの /tmp ディレクトリの最小ディスク領域要件を示します。

クライアント・インストール・タイプ	/tmp ディレクトリに必要なディスク領域 (MB)
Instant	120
管理者	835
ランタイム	470
カスタム (すべてのコンポーネントを選択した場合)	765

- Oracle ソフトウェア用の 34MB ~ 1.9GB のディスク領域 (インストール・タイプによって異なる)

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理的な RAM のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/lsattr -E -l sys0 -a realmem
```

システムにインストールされている物理的な RAM のサイズが指定した値未満の場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。

2. 構成されているスワップ領域のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/lspas -a
```

追加のスワップ領域の構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

3. /tmp ディレクトリ内の空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -k /tmp
```

/tmp ディレクトリで使用できるディスク領域が 400MB 未満の場合は、次の手順の 1 つを実行します。

- ディスク領域要件を満たすように、/tmp ディレクトリから不要なファイルを削除します。

- oracle ユーザーの環境を設定する場合（後述します）は、TMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
  - /tmp ディレクトリを含むファイル・システムを拡張します。ファイル・システムの拡張方法は、必要に応じてシステム管理者に確認してください。
4. システムで使用できる空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -k
```

このコマンドにより、マウントされている全ファイル・システムのディスク領域の使用量が表示されます。ディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定する必要があります。

次の表に、ソフトウェア・ファイルのおおよそのディスク領域要件をインストール・タイプごとに示します。

インストール・タイプ	ソフトウェア・ファイルの要件
Instant Client	130MB
管理者	2.7GB
ランタイム	1.8GB
カスタム（最大値）	3GB

---

**注意：** Instant Client の Instant Client Light コンポーネントのみを構成する場合は、関連するファイルを格納するために 34MB のディスク領域が必要です。

---

5. システム・アーキテクチャがソフトウェアを実行できるかどうかを判断するには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/bin/getconf HARDWARE_BITMODE
```

このコマンドは、次の出力を返します。

```
64
```

予想していた出力が表示されない場合、このシステムにソフトウェアをインストールすることはできません。

## 4 ソフトウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- オペレーティング・システムのバージョンおよびメンテナンス・レベルが、AIX 5L バージョン 5.2、Maintenance Level 04 以上、または AIX 5L バージョン 5.3、Maintenance Level 02 以上必要です。
- 次のオペレーティング・システムのファイルセットが必要です。

```
bos.adt.base
bos.adt.lib
bos.adt.libm
bos.perf.libperfstat
bos.perf.perfstat
bos.perf.proctools
xlC.aix50.rte:7.0.0.4 or later
xlC.rte:7.0.0.1 or later
```

インストールする Oracle 製品は、システムが次の製品固有要件を満たす必要があります。

- OC Systems PowerAda 5.3
- Oracle JDBC/OCI ドライバ  
Oracle JDBC/OCI ドライバでは、オプションで次の IBM JDK バージョンを使用できますが、インストールには不要です。
  - JDK 1.4.2 (64 ビット)
  - JDK 1.3.1.11 (32 ビット)
  - JDK 1.2.2.18

IBM JDK 1.4.2 (32 ビット) は、このリリースとともにインストールされます。

- Pro\*C/C++、Oracle Call Interface、Oracle C++ Call Interface、Oracle XML Developer's Kit (XDK)、GNU Compiler Collection (GCC)
  - May 2005 XL C/C++ Enterprise Edition V7.0 for AIX PTF (7.0.0.2)  
このソフトウェアは、次のリンクからダウンロードできます。  
<http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24009787>
  - gcc 3.3.2

---

---

**注意：** IBM XL C/C++ Enterprise Edition V7.0 コンパイラをインストールしていない場合は、IBM XL C/C++ Enterprise Edition V7.0 for AIX Runtime Environment Component をインストールする必要があります。ランタイム環境ファイルセットは、ライセンス要件なしで次のリンクからダウンロードできます。

<http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24009788>

---

---

- Pro\*COBOL
  - Micro Focus Server Express 4.0 SP1
  - AcuCobol 6.1
- Pro\*FORTRAN  
IBM XL Fortran V9.1
- SQL\*Module for Ada  
OC Systems PowerAda 5.3 以上

---

---

**注意：** OC Systems および PowerAda 5.3 の詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.ocsystems.com/contact.html>

---

---

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. インストールされているオペレーティング・システムのバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# oslevel -r
```

オペレーティング・システムのバージョンが AIX 5.2.0.0 Maintenance Level 04 (5200-04) 未満の場合は、オペレーティング・システムをこのレベルにアップグレードします。AIX 5L バージョン 5.2 メンテナンス・パッケージは、次の Web サイトから入手できます。

<http://www-912.ibm.com/eserver/support/fixes/>

2. 必要なファイルセットがインストールおよびコミットされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# lsllpp -l bos.adt.base bos.adt.lib bos.adt.libm bos.perf.perfstat  
bos.perf.libperfstat bos.perf.proctools
```

ファイルセットがインストールおよびコミットされていない場合は、インストールします。ファイルセットのインストールの詳細は、オペレーティング・システムまたはソフトウェアのマニュアルを参照してください。

また、システムに次のパッチがインストールされていることも確認する必要があります。このリストに続く手順では、これらの要件を確認する方法について説明します。

---

---

**注意：** リストに記載されているよりも新しいバージョンのパッチがシステムにインストールされている場合もあります。リストに記載されているパッチがインストールされていない場合は、リストに記載されているバージョンをインストールする前に、最新のバージョンがインストールされているかどうかを調べてください。

---

---

- AIX にすべてインストールするには、次のパッチが必要です。

**Authorized Problem Analysis Reports (APARs) for AIX 5L v5.2 ML 04:**

- IY63133: ldata\_balance ルーチンで使用される長時間の CPU 時間
- IY64978: JFS で名前変更とリンク解除を同時に行うことによるデッドロック
- IY63366: AIX520 ML-4 では有効な記号に対しても dlsym は NULL を返す
- IY64691: chvg -b により破損およびクラッシュが発生する可能性がある
- IY64737: AIO は knotunlock でハングする可能性がある
- IY65001: ストライプされた lv での mk1vcopy は lvcb の更新に失敗する

- Pro\*C/C++, Oracle Call Interface, Oracle C++ Call Interface または Oracle XML Developer's Kit (XDK)

May 2005 XL C/C++ Enterprise Edition V7.0 for AIX PTF (7.0.0.2) :

- IY64361: -o が指定されている場合 putdiag\_no\_handler() の例外
- IY65361: May 2005 XL C Enterprise Edition V7.0 for AIX PTF
- IY65362: MAY 2005 XL C/C++ Enterprise Edition V7 for AIX

- Oracle JDBC/OCI ドライバ

**注意:** これらの APAR は、関連する JDK バージョンを使用している場合のみ必要です。

**JDK 1.4.2 (64 ビット) に必要な APAR:**

IY63533: DK 1.4.2 64-bit SR1 caix64142-20040917

**JDK 1.3.1.11 (32 ビット) に必要な APAR:**

IY58350: SDK 1.3.1 32-BIT SR7P : CA131IFX-20040721A

IY65305: JAVA142 32-BIT PTF : CA142IFX-20041203

**JDK 1.2.2.18 に必要な APAR:**

IY40034: SDK 1.2.2 PTF: CA122-20030115

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. APAR がインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/instfix -i -k "IY63133 IY64978 IY63366 IY64691 IY65001 \  
IY64361 IY65305"
```

APAR がインストールされていない場合は、次の Web サイトからダウンロードしてインストールします。

<http://www-912.ibm.com/eserver/support/fixes/>

2. CSD for WebSphere MQ が必要な場合、ダウンロードおよびインストールの情報については次の Web サイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/software/integration/mqfamily/support/summary/aix.html>

## 5 必須のオペレーティング・システム・グループ およびユーザーの作成

システムに次のローカル・オペレーティング・システム・グループおよびユーザーが存在している必要があります。

- Oracle インベントリ・グループ (oinstall)
- Oracle ソフトウェア所有者 (oracle)

このグループおよびユーザーがすでに存在しているかどうかを調べる場合、または必要に応じて作成する場合は、次の手順を実行します。

1. oinstall グループが存在しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# more /etc/oraInst.loc
```

このコマンドの出力結果が oinstall グループ名を示している場合、そのグループはすでに存在しています。

oraInst.loc ファイルが存在する場合、このコマンドの出力結果は次のようになります。

```
inventory_loc=/u01/app/oracle/oraInventory  
inst_group=oinstall
```

inst\_group パラメータは、Oracle インベントリ・グループの名前 oinstall を示しています。

2. oraInst.loc ファイルが存在しない場合は、次のプロシージャを使用して Oracle インベントリ・グループを作成します。
  - a. 次のコマンドを入力します。
 

```
smit security
```
  - b. 適切なメニュー項目を選択して、oinstall グループを作成します。
  - c. [F10] キーを押して終了します。
3. oracle ユーザーが存在し、正しいグループに属しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。
 

```
# id oracle
```

oracle ユーザーが存在する場合は、このコマンドにより、ユーザーが属しているグループに関する情報が表示されます。出力結果は次のようになります。oinstall がプライマリ・グループであることが示されています。

```
uid=440(oracle) gid=200(oinstall) groups=201(dba),202(oper)
```
4. Oracle ソフトウェア所有者ユーザーを変更または作成するには、次の手順を実行します。
  - a. 次のコマンドを入力します。
 

```
# smit security
```
  - b. 適切なメニュー項目を選択して、oracle ユーザーを変更または作成します。
  - c. 「**Primary GROUP**」フィールドで、oinstall などの Oracle インベントリ・グループを指定します。
  - d. 「**Group SET**」フィールドで、必要なセカンダリ・グループを指定します。
  - e. [F10] キーを押して終了します。
5. 次のコマンドを入力して、oracle ユーザーのパスワードを設定します。
 

```
# passwd oracle
```

## 6 Oracle ベース・ディレクトリの作成

次のような名前の Oracle ベース・ディレクトリを作成して、適切な所有者、グループおよび許可を指定します。

```
/u01/app/oracle
```

Optimal Flexible Architecture (OFA) ガイドラインでは、Oracle ベース・ディレクトリに次のようなパスを使用することを薦めています。

```
/mount_point/app/oracle_sw_owner
```

このディレクトリを作成する場所を調べるには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、マウントされているすべてのファイル・システムに関する情報を表示します。
 

```
# df -h
```

このコマンドにより、システムにマウントされているすべてのファイル・システムに関する情報が表示されます。次のような情報があります。

  - 物理デバイス名
  - ディスク領域の合計量、使用量および使用可能量
  - そのファイル・システムのマウント・ポイント

2. 表示された情報から、ファイル・システムに十分なディスク領域があることを確認します。
3. 特定したファイル・システムのマウント・ポイント・ディレクトリ名を書き留めます。

必要なディレクトリを作成して、適切な所有者、グループおよび許可を指定するには、次の手順を実行します。

---

---

**注意：** 次の手順で、/u01 を手順 3 で特定した適切なマウント・ポイント・ディレクトリに置き換えます。

---

---

1. 次のコマンドを入力して、Oracle ベース・ディレクトリに対して特定したマウント・ポイント・ディレクトリのサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /u01/app/oracle
```

2. 作成したディレクトリの所有者およびグループを oracle ユーザーおよび oinstall グループに変更します。

```
# chown -R oracle:oinstall /u01/app/oracle
```

3. 作成したディレクトリの許可を 775 に変更します。

```
# chmod -R 775 /u01/app/oracle
```

後でインストール中に oracle ユーザーの環境を構成するときに、作成した Oracle ベース・ディレクトリを指定するように ORACLE\_BASE 環境変数を設定します。

## 7 oracle ユーザーの環境の構成

Oracle Universal Installer は、oracle アカウントから実行します。ただし、Oracle Universal Installer を起動する前に、oracle ユーザーの環境を構成する必要があります。環境を構成するには、次の設定が必要です。

- シェル起動ファイルで、デフォルトのファイル・モード作成マスク (umask) を 022 に設定します。
- DISPLAY 環境変数を設定します。

oracle ユーザーの環境を設定するには、次の手順を実行します。

1. X 端末 (xterm) など、新しいターミナル・セッションを開始します。
2. X Window アプリケーションがこのシステムで表示できることを確認するために、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost fully_qualified_remote_host_name
```

3. 次の手順の 1 つを実行します。

- ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されていない場合は、そのシステムに oracle ユーザーとしてログインします。
- ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されている場合は、ユーザーを oracle に切り替えます。

```
$ su - oracle
```

4. oracle ユーザーのデフォルトのシェルを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ echo $SHELL
```

5. oracle ユーザーのシェル起動ファイルをテキスト・エディタで開きます。
  - C シェル (csh または tcsh) :
 

```
% vi .login
```
6. シェル起動ファイルで次の行を入力または編集して、デフォルトのファイル・モード作成マスクに値 022 を指定します。
 

```
umask 022
```
7. ORACLE\_SID、ORACLE\_HOME または ORACLE\_BASE 環境変数がファイルで設定されている場合は、ファイルから対応する行を削除します。
8. ファイルを保存して、エディタを終了します。
9. 次の行の 1 つをファイルに追加して、AIXTHREAD\_SCOPE 環境変数を S (システム全体のスレッド有効範囲) に設定します。
  - Bourne シェル (sh)、Bash シェル (bash)、または Korn シェル (ksh) :
 

```
AIXTHREAD_SCOPE=S; export AIXTHREAD_SCOPE
```
  - C シェル (csh または tcsh) :
 

```
setenv AIXTHREAD_SCOPE S
```
10. シェルの起動スクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。
  - Bash シェル:
 

```
$ . ./bash_profile
```
  - Bourne シェルまたは Korn シェル:
 

```
$ . ./profile
```
  - C シェル:
 

```
% source ./login
```
11. /tmp ディレクトリの空きディスク領域が 400MB 未満と判断した場合は、少なくとも 400MB の空き領域があるファイル・システムを特定して、このファイル・システム上の一時ディレクトリを指定するように TMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
  - a. df -k コマンドを使用して、空き領域が十分にある適切なファイル・システムを特定します。
  - b. 必要に応じて、次のようなコマンドを入力して、特定したファイル・システム上に一時ディレクトリを作成し、そのディレクトリに適切な許可を設定します。
 

```
$ su - root
# mkdir /mount_point/tmp
# chmod a+wr /mount_point/tmp
# exit
```
  - c. 次のようなコマンドを入力して、TMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
    - \* Bourne、Bash または Korn シェル:
 

```
$ TMP=/mount_point/tmp
$ TMPDIR=/mount_point/tmp
$ export TMP TMPDIR
```
    - \* C シェル:
 

```
% setenv TMP /mount_point/tmp
% setenv TMPDIR /mount_point/tmp
```

12. ソフトウェアのインストール先がローカル・システムではない場合は、ローカル・システムに表示するために、次のようなコマンドを入力して、Xアプリケーションに指示します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ DISPLAY=local_host:0.0 ; export DISPLAY
```

- C シェル:

```
% setenv DISPLAY local_host:0.0
```

この例で `local_host` は、Oracle Universal Installer の表示に使用するシステム (ワークステーションまたは PC) のホスト名または IP アドレスです。

13. 次のコマンドを入力して、ORACLE\_BASE および ORACLE\_SID 環境変数を設定します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ ORACLE_BASE=/u01/app/oracle
$ ORACLE_SID=sales
$ export ORACLE_BASE ORACLE_SID
```

- C シェル:

```
% setenv ORACLE_BASE /u01/app/oracle
% setenv ORACLE_SID sales
```

前述の例では、`/u01/app/oracle` は以前に作成した Oracle ベース・ディレクトリです。

14. ORACLE\_HOME および TNS\_ADMIN 環境変数が設定されていないことを確認するために、次のコマンドを入力します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ unset ORACLE_HOME
$ unset TNS_ADMIN
```

- C シェル:

```
% unsetenv ORACLE_HOME
% unsetenv TNS_ADMIN
```

15. 環境が正しく設定されたことを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ umask
$ env | more
```

`umask` コマンドにより値 22、022 または 0022 が表示されていること、およびこの項で設定した環境変数に適切な値が設定されていることを確認します。

## 8 製品ディスクのマウント

ほとんどの AIX システムでは、製品ディスクをドライブに挿入すると自動的にマウントされます。ディスクが自動的にマウントされない場合は、次の手順を実行してマウントします。

1. ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
```

2. 必要に応じて、次のようなコマンドを入力して現在マウントされているディスクを取り出し、ドライブから取り除きます。

```
# umount /dvd
```

この例では、/dvd はディスク・ドライブのマウント・ポイント・ディレクトリです。

3. ディスクをディスク・ドライブに挿入し、次のコマンドを入力してマウントします。

```
# /usr/sbin/mount -rv cdrfs /dev/cd0 /dvd
```

この例では、/dev/cd0 はディスク・ドライブのデバイス名、/dvd はマウント・ポイント・ディレクトリです。

4. Oracle Universal Installer に「ディスクの場所」ダイアログ・ボックスが表示される場合は、ディスク・マウント・ポイント・ディレクトリ・パスを入力します。次に例を示します。

```
/dvd
```

## 9 Oracle Database Client のインストール

oracle ユーザーの環境を構成した後、次のようにして Oracle Universal Installer を起動し、Oracle ソフトウェアをインストールします。

1. Oracle Universal Installer を起動するには、インストール・ファイルの場所によって次の手順のいずれかを実行します。

- インストール・ファイルがディスク上にある場合は、次のコマンドを入力します。directory\_path は、DVD 上の db ディレクトリのパスです。

```
$ cd /tmp  
$ /directory_path/runInstaller
```

- インストール・ファイルがハード・ディスク上にある場合は、ディレクトリを db に変更して、次のコマンドを入力します。

```
$ ./runInstaller
```

Oracle Universal Installer が起動しない場合、『Oracle Database Client インストール・ガイド for AIX 5L Based Systems (64-bit)』で、X の表示のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

2. 次の表に、Oracle Universal Installer の各画面での推奨するアクションを説明します。次のガイドラインを使用して、インストールを完了します。

- より詳細な情報が必要な場合、またはデフォルト以外のオプションを選択する場合、「ヘルプ」をクリックすると追加情報が表示されます。
- ソフトウェアのインストール時またはリンク時にエラーが発生した場合、『Oracle Database Client インストール・ガイド for AIX 5L Based Systems (64-bit)』のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

---

**注意：** 前述のタスクを完了している場合、ほとんどの画面でデフォルトを選択してインストールを完了できます。

---

画面	推奨するアクション
インストール方法の選択	<p>デフォルトでは「基本インストール」オプションが選択されています。</p> <p>Oracle ホームのディレクトリ・パスを指定します。UNIX DBA グループ oinstall が選択されていることを確認します。初期データベースを作成する場合は、名前およびパスワードを指定します。「次へ」をクリックします。</p>
インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定	<p>この画面は、システムに Oracle 製品を初めてインストールする場合のみ表示されます。</p> <p>Oracle インベントリ・ディレクトリのフルパスを指定します。選択されているオペレーティング・システム・グループが oinstall であることを確認します。「次へ」をクリックします。</p>
製品固有の前提条件のチェック	<p>前提条件の確認がすべて成功したかどうかを確認してから、「次へ」をクリックします。</p> <p>Oracle Universal Installer は、システムが Oracle ソフトウェアを実行するように正しく構成されているかどうかを確認します。このマニュアルに記載されているインストール前の手順をすべて実行した場合は、すべての確認が成功します。</p> <p>確認に失敗した場合は、画面に表示された失敗の原因を確認してください。可能であれば、問題を修正して確認を再実行します。システムが要件を満たしていることを確認した場合は、失敗した確認のチェック・ボックスを選択して、要件を手動で確認することもできます。</p>
サマリー	<p>この画面に表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。</p>
インストール	<p>この画面では、製品のインストール中、ステータス情報が表示されます。</p>
コンフィギュレーション・アシスタント	<p>この画面には、ソフトウェアを構成し、データベースを作成するコンフィギュレーション・アシスタントのステータス情報が表示されます。このプロセスの終了時にメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックして続行します。</p>
構成スクリプトの実行	<p>プロンプトが表示されたら、指示を読み、この画面に表示されたスクリプトを実行します。「OK」をクリックして続行します。</p>
インストールの終了	<p>コンフィギュレーション・アシスタントにより、Oracle Enterprise Manager Database Control を含む複数の Web ベースのアプリケーションが構成されます。この画面には、これらのアプリケーションに対して設定されている URL が表示されます。使用した URL を書き留めます。これらの URL で使用したポート番号は、次のファイルにも記録されます。</p> <p>oracle_home/install/portlist.ini</p> <p>Oracle Universal Installer を終了するには、「終了」をクリックし、次に「はい」をクリックします。</p>

- 「拡張インストール」を選択した場合は、SYS、SYSTEM、SYSMAN および DBSNMP のパスワードを入力するようにプロンプトが表示されます。次のようにパスワードを指定することをお勧めします。
  - 4文字以上使用する
  - ユーザー名と異なるものにする
  - 1文字以上の英字および数字と1文字の記号を使用する
  - welcome、account、database、userなどの単純または明白な語を使用しない
- データベース・コンフィギュレーション・アシスタントおよび Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタント (NetCA) を対話モードで実行するインストール・タイプを選択した場合は、データベースおよびネットワークの構成に関する詳細を指定する必要があります。

## 10 インストール後の作業

Oracle Client を正常にインストールした後、『Oracle Database Client インストール・ガイド for AIX 5L Based Systems (64-bit)』で、必須およびオプションのインストール後の手順を参照してください。

## 11 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし一部のスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

### Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ24時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

## 12 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

### Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

### 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

### 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

### その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

---

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

---

---

Oracle Database Client クイック・インストール・ガイド, 10g リリース 2 (10.2) for AIX 5L Based Systems (64-bit)

部品番号 : B25042-02

原本名 : Oracle Database Client Quick Installation Guide, 10g Release 2 (10.2) for AIX 5L Based Systems (64-Bit)

原本部品番号 : B19078-02

Copyright © 2006, Oracle. All rights reserved.

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれていません。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段 (電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへのリンク、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

